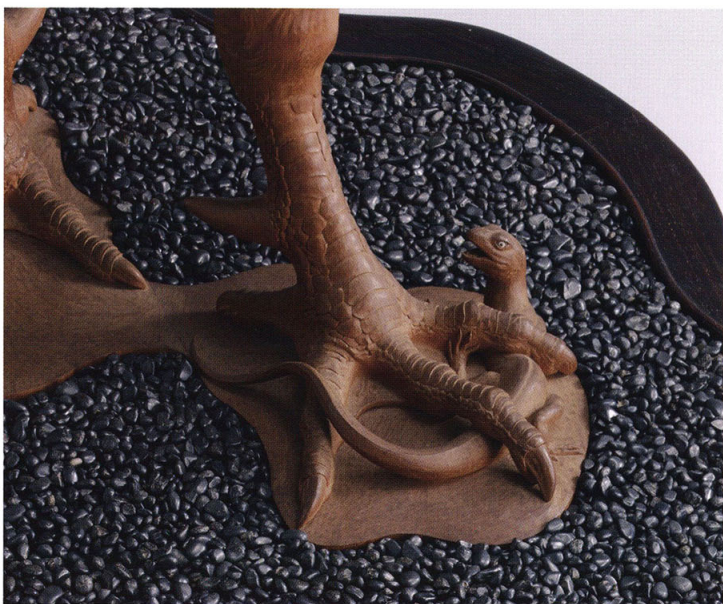




堂々たる雄のシャモが、鋭い爪のある足でトカゲを押さえ付け、両者の視線がぶつかり合う。洲浜形の台には砂利を敷き、盆景のように仕立てられている。シャモの足下の基台底裏に「光明」と方印風の「寿山」の刻銘があり、明治期を代表する彫刻家、石川光明（一八五二〜一九一三）の作品であることが知られる。明治二十三年に帝室技芸員に任命された光明は牙彫で名高いが、宮彫師の系譜に連なり、木彫の浮彫りを最も得意としていた。ま

た、東京美術学校で後進の指導に当たりながら、木彫表現の研究を深めており、本作は丸彫り作品として、光明の代表作に挙げられよう。大正二年まで沼津御用邸で装飾品として用いられていた品で、伝来は不詳。『日本美術画報』四篇巻八に写真が掲載されている明治三十年第十二回彫刻競技会の出品作と酷似しており、またその記事から、明治二十八年の第四回内国勸業博覧会に出品された軍鶏置物との関連が想起される。



16 石川光明《軍鶏置物》

明治二十〜三十年代（十九世紀）
桜材、木彫
総三五・六 × 五九・四 × 五六・〇



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan